

第2回 福島西道路検討委員会

議 事 要 旨

日時：平成17年11月18日（金）

13:30～15:30

場所：福島ビューホテル 2F 信夫の間

【出席者】

委員長	福島大学共生システム理工学類教授	鈴木 浩
副委員長	秋田大学名誉教授	清水 浩志郎
委員	国土技術政策総合研究所道路研究部長	大西 博文
	福島県トラック協会専務理事	酒井 勝治
	福島商工会議所会頭	佐藤 勝三
	NHK 福島放送局長	田口 信太郎
	八戸工業大学工学部環境建設工学科教授	武山 泰
	福島県自然保護協会会長	星 一彰
事務局	国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所	
	福島県土木部道路企画グループ	
	福島市建設部幹線高速道路課	

1. 第1回委員会以降に実施したPⅠ内容及びPⅡによる市民意見の概要について

市民意見に対する数字的な割合の確認・指摘。

- ・市民意見について、大まかな統計データを教えてほしい。
口頭にて補足説明。渋滞解消に対する期待が約3割を占める。
- ・市民からは否定的な意見も出ているが、割合的にはどの程度なのか。
口頭にて補足説明。否定的意見はわずかである。
- ・少数意見でも、1件の意見であり、使い方に注意しなければならない
- ・市民からの反対意見についても少数意見だからとするのではなく、きちんと目的や必要性の中で対応した上で説明する必要がある。
- ・オープンハウスやニューズレターのハガキという無作為抽出でない意見把握ではあるが、市民意見のおおまかな傾向という意味では把握しておく必要があるのではないか。

市民意見の内容についての追加事項。

- ・市民意見の中に「植栽等による沿道景観への配慮」とあるが、本来有している自然植生の保全にも留意すべきである。
- ・伏拝で苦労している人の意見を聞くと、もっと西道路に対する強い要望が出されるはずである。

PⅡの内容についての質問

- ・オープンハウスでは、行政と市民は意見交換する機会があったのか。
オープンハウスでは、一方的な説明になることもあったし、直接の意見交換も実施した。

2. 福島都市圏における道路計画の目的と必要性について

全体構成についての指摘

- ・交通計画を立案する上での基本として、「目的・哲学・理念、将来目標（必要性・数値目標）、対策（手段）」という順序があるはずである。その点、今回提案されている「目的」は道路整備方針について述べていることから目的というよりも対策・手段であり、「道路計画の必要性」の後で記載する内容である。目的としては、「安心・安全で、快適で、美しい」というような理念を大上段にかまえるべきである。

福島河川国道事務所では、「安全、安心、地域の活性化に資する」という理念を掲げている。この理念を道路計画の

目的に反映させ、今回提案した目的は評価項目などの配慮事項と捉えていきたい。今後、共通の考え方のベースを築く方針で検討する。

- ・「道路計画」よりは「道路環境計画」とした方がよいのではないか。
- ・これまでの市民意見は福島都市圏に関する意見なので、漠然とした回答となっている。必要な道路は整備するという態度を明確にし、作る際の懸念（環境、財政、その他）について早い段階から議論した方がよいのではないか。

「市民意見を踏まえた交通課題」の内容についての指摘

- ・「早急に整備すべき交通課題」の上3項目は一つにまとめられるのではないか。
- ・PT調査があるならば、交通問題を検討する上においては有効な資料になる。

「福島都市圏における道路計画の目的」の内容についての指摘

- ・「福島都市圏における道路計画の目的」の3項目がすっきりと分類されていないので、再整理してほしい。具体的には、「中心部の魅力を回復」及び「より安心な市民生活の提供」は<社会>に分類すべきである。また、<社会>の「良好な市街地の形成に寄与」は、商業地については<社会>に当てはまるが、住宅地については<環境>に分類されるべきである。
- ・「骨格軸の機能回復」が目的として掲げられているが、仮に西道路が南伸されても北部の問題は解決しない。目的をあまり大上段に構えないほうがよいのではないか。
- ・市民意見の結果から目的を導き出すのは不自然である。理念に近づけるためにアンケートをとったのではないか
- ・「福島都市圏における道路計画の目的」は、何を指して道路計画と言っているのか不明確であるため、どうしても道路整備ありきという印象を受けてしまう。都市問題や交通問題から交通計画に絞り込んでいく必要がある。
- ・福島都市圏全体から見た問題から伏拝付近の問題まで落としこんでいくための整理が必要である。
- ・目的に環境などの配慮事項まで入れ込んでしまっているところに無理があるのではないか。

「道路計画の必要性」の内容についての指摘

- ・「道路計画の必要性」と書いてしまうと、道路は最初から必要だという印象を受けてしまうため、「道路計画の将来像」などの表記が望ましい。
- ・地域発展のための総合的な展開のなかから、今回はそのひとつに注目しているというところに落とし込む必要があり、その手続きを明快にすべきである
- ・確かに最初から道路整備ありきという印象を受けてしまうところがあるため、福島都市圏全体の議論から西道路の方向性へと踏み込んでいくためのロジックを再整理する必要がある。
- ・目的の設定を福島都市圏から入っているために目的が複数となっているが、これらすべてを「道路整備」へと落とし込んでいるところに無理がある。個別の課題毎に方策を記載すべきではないか。
- ・今では、西道路の供用区間自体が渋滞原因となっているが、沿道市民には西道路は生活道路として位置づけられてしまっている。市民に対して西道路の目的・完成形を早い段階で示す必要がある。
- ・道路整備の必要性については、南断面の交通量・容量などの分析結果と市民意見をあわせて判断すべきである。
- ・冬期の伏拝交差点により、福島全体の交通ネットワークが崩れており、伏拝付近が一番の問題であるというのが市民感情に最も近いと考えられる。緊急性はこの一点に絞られる。伏拝付近を回避できる道路整備が必要であり、また幹線道路のこうした問題を解決することが必要である。
- ・「道路計画の必要性」においては、「東北道の活用」と「公共交通への転換」の分析のしかたがやや強引な印象を受ける。ガイドラインに固執しすぎているように見られるので、西道路南伸に限って見るとどうなるのかといった視点から検討してもよいのではないか。
- ・「東北道の活用」や「公共交通への転換」にもそれぞれの役割があるが、南部地域の問題に限ってみれば道路整備が必要であるということになるのではないか。

評価項目等についての指摘

- ・東北横断道路の帯には猛禽類が息息していたため、道路整備も結果的に大きく迂回することとなった経緯がある。今後の調査は必要だが、西道路南伸の帯は既に人が入り込んでいるため、他の道路に比べ環境保全のインパクトは大きくないと思われる。

全般のとりまとめ、今後の方針について

- ・市民意見では、西道路南伸に対しボトルネックになる意見は少なかったように見受けられる。個人的には、環境の問題はあるが、次のステップに進んでも良いと考える。

3. 当面の進め方について

代替案についての指摘・質問等

- ・ 今回の地元懇談会は、代替案を設定する前段階ということで認識してよいか？
その通りである。
- ・ 代替案の設定は、どこからどこまでといった所を想定しているのか？
地元懇談会の中で、「どこからどこまで、その理由は」といった所を聞き出していきたい。
- ・ 代替案と聞くと、既に本命案があるのではないかと感じてしまう。
- ・ 「代替案」という表現は工夫が必要である。
- ・ 「代替案」というよりも「比較案」が本来の意味である。

次ステップへの移行についての指摘

- ・ フィードバックしないためには、次のステップに移行するためには、何をクリアしなければいけないか明確に設定しておく必要がある。

「福島都市圏における道路計画の目的と必要性」については、事務局内で再整理し、鈴木委員長と調整する。